

来年は子年

25年の歳月を経て

新たな気持ちで!



はぐるま

今、国政は法改正と予算編成で

大波乱

新たな福祉元年になるか

10月30日「私たち抜きに、私たちのことをきめないで」をスローガンに掲げた「自立支援法」の見直しを求める全国フォーラムが日比谷音楽堂で、開催されました。

はぐるまから、仲間・職員合わせて40名が参加、全体で6,500名の関係者が集まりました。通路にまで参加者が溢れ、会場に入るのもままならないほどに膨れ上がり、関心の高さが見とれます。

仲間達が印象に残ったのは、身体障害のある子どもたちの母親の訴えで、《普通のシューズがはけないので補装具に大変お金がかかること》《視覚障害者の《銀行へ寄りたいたいのに、予定に

No.35

2007年12月14日

社会福祉法人
はぐるまの会

広報委員会
後援会

川崎市多摩区菅馬場1-18-17

Tel 044-946-1308

ないことは出来ないと言われたヘルパーさんの話等「なんか変な法律だな!」というところを、当事者の生の声を聞くことよって、感じているようでした。

政党アピールでは、全ての政党が、問題ありとの発言がありました。が、前面廃止論・一部改正論と、かなりの温度差を感じました。

今回の熱気溢れるフォーラムで、よい方向に改善されることを願います。

(はぐるま工房 森崎記)

そして……

12月5日付け毎日新聞

自立支援法 障害基礎年金引き上げ

見直し与党案 介護保険と統合せず

の大見出しの記事に目を奪われました。

《抜本の見直しの方向性について》の要旨

活動報告

・年金の引き上げは2級の給付(月6万6000円)を1級並(月8万2000円)に引き上げ、1級を増額する。

・介護保険との統合を前提とせず、障害者施策としてのあるべき仕組みを考察する

・利用者負担は低所得者の負担を更に軽減し
応能的性格を高める。

(世帯単位から個人単位への見直し)

・事業者の経営基盤安定のための報酬額改定

・区分認定の見直し

私たちはこの動きに大いに期待すると同時に、ごまかされない「目」を持ち、国の無駄づかいと、無駄に使った責任が、国民にしわ寄せをすること、解決されないよう、この法案の行方を、見極めていきたいと思います。

仲間たち全員で取り組んだ「富士山クラブ森の学校」参加活動は土曜日クラブで引き続き行う事になりました。年に四〜五回、四〜五人の仲間達で参加します。土曜日利用の仲間達は一年に一度は富士山ろくへ出かけます。第一回目は第一作業所仲間に参加して活躍。無事元気に帰ってきました。休日を返上しての職員の支援に感謝。

《富士山清掃 同行記》

十二月八日(土)に第一作業所の仲間四名で富士山クラブの定例清掃活動に参加してきました。

富士山クラブでは、毎月一回富士山の清掃活動を実施しており、昨年度、全体行事として取り組んだ富士山クラブの清掃活動への参加を今後も継続していく為に、今回から土曜日クラブの活動として新たにスタートしました。

当日は天候にもめぐまれ絶好の清掃日和となりましたが、昨年の清掃活動に健康上の理由で参加できなかった仲間2人は「これから何をやるのだろうか?」と、不安げな表情を見せていました。

富士山クラブのスタッフさんにゴミの分別の説明を受けていると、参加経験の多い仲間から「あの袋は燃えるゴミだね」「ビンとカンの袋の色が前と違う」「山梨県と静岡県では捨て方が違うんだね」と、

やる気満々。富士山特有のやわらかい足場の登山道を進み、いざ清掃場所へ、到着した仲間を待ち受けていたのはガケ一面に拡がるゴミの山、それも半端な量ではありません。

今回の清掃場所は、今まで参加してきた中で、一番強烈な印象を受ける現場で、トタン屋根や水道管にはじまり、石油ストープ、スプリングマット、自動車部品と家一軒を丸ごと捨てているかのようでした。明らかに産業廃棄物の処理費用を浮かせるために、トラックで登山道の奥まで乗り付けて捨てたのでしよう。

これが世界でも有数の大国、先進国と呼ばれている日本の現状かと思うと悲しくなります。

仲間たちはガケから次々と落とされる大きなゴミを抱えて「このゴミは燃えるゴミだから…」「これは金属かな?」「一人じゃ持てないよ!誰か手伝って!」と大混乱です。足場の悪い急な斜面の中でゴミをリレー方式でガケの上にあげて、そこからは両手にゴミを抱えて国道付近までの運搬です。両手に荷物を抱えて数百メートルも運ぶのは本当に大変で、数回往復するだけで両手がパンパンになってしまいます。

その中で仲間4人の動きは他の一般参加者にも全く引けを取りません。あつという間に2時間の活動時間は過ぎて行きました。今回も富士山クラブのスタッフさんからもお褒めの言葉をいただき、仲間たちはとても充実した表情です。

確かに大量のゴミの不法投棄が原因で世界遺産

に登録できなかった富士山の現状を考えると、月一回の清掃活動に参加するだけでは大きな成果は得られないかも知れません。

ただ、自分の家の前のゴミを拾うのと同じように日本の象徴と云われる富士山の清掃活動を取り組むことができる人に健常者や障害者の区別は全く必要ありません。逆に世の中一般の人たちよりも正しい事に対する意識は高いほどです。

「富士山を汚してしまったのは人間だけけど、きれいにできるのも人間です」「富士山クラブのモットー」人として何ができるのかを、仲間と共に考え・体験している、貴重な経験は、今後の大きな財産になることを信じて、今後も継続していきたい活動として参加していきたいと思えます。(はぐるま工房 福田記)



健康管理は毎日毎日の積み重ね。ついつい見逃しがちな仲間達の体と心を見て頂いている江口看護師。心強い支援者を迎えています。

《仲間とのふれあい》

初めてはぐるまに伺うようになって早いもので八ヶ月になりました。実際には週2回の勤務なので二か月ほどの勤務日数なのでまだまだ戸惑う場面が多いのですが幸い仲間は行くとても喜んでくれるので仲間の顔や名前が覚えられるようになり仲間から話しかけてくれることも多くなりました。

仲間は私が来るのを見つけると必ず気持ち悪いと吐くしぐさをしたり、おなかが痛い、足が痛いと言いはじめます。血圧を測ろうとするとまさに作業所が病人だらけになってしまいました。大抵は話を聞いて痛いというところをさすれば元気になるのですが痛風や糖尿病などを持っている仲間は見た目では判断できず、急遽病院を受診することもあります。

七月の定期健康診断でも予想上に肝機能や中性脂肪などで異常がある仲間が多いことにびっくりしました。年齢的にもこれから注意が必要な仲間がどんどん増えています。押し付けではなく、なぜ健康管理が必要か話していかたと考えています。

(江口看護師記)

和太鼓チャレンジコンサート



十二月二日(日)国立オリンピック記念青少年総合センターで和太鼓のコンサートが開かれ、はぐるま仲間達四人(有賀・奥田・中澤推名)が、和太鼓チーム「演時得」(エンジエルの一員として出演しました。

毎月一回、二回の練習を続け、当日も本番の強さを如何なく発揮して満場の拍手を浴びていた。

近年、心身にハンデを持つ青少年の育成・社会参加を目指し、「積極性」「自主性」「協調性」「自己表現」「身体機能回復・強化」等『療育』を目的として、和太鼓を使う実践のフォーラムです。ともあれ仲間達が喜んで練習参加している。始めてから三年目。継続して実践することが大事かを改めて思い知らされた出演活動でした。

《福祉のゆくえ》

お読みになられた方も多いかとは思いますが、

朝日新聞十二月七日付社説では「知的障害者愛する人と街で暮らそう」と題して長崎県雲仙市の社会福祉法人、南高愛隣会が営む知的障害者のための二つの入所施設がこの春閉鎖されたことを紹介。「どんなによい介護をしても施設は特別の場所。だれもが愛する家族のそばで暮らすことを望んでいる。閉鎖を目標に三十年やってきました」と理事長の田島良明さんの話を掲載。

和太鼓チームの仲間や家庭を持った仲間、施設では一般の会社でも働けるようマラソンなどで基礎体力をつけた。(抜粋)

長野県駒ヶ根市にある施設「長野県西駒郷」も五年間で入所者の約半数になる209人を地域へ送り出したことも紹介。地域生活支援センター

所長、山田優さんから職員が入所者と話し合いを重ね、障害の軽重ではなく支援態勢の整った人から移っていく方法をとっている。(抜粋)

双方の事例で共通している点は同時にグループホームに重点を置いていて、ところに大きな特徴があります。やれば、できる。これらの例は、そう教えてくれる。

入所者の願いに本気で寄り添えば、施設と地域の進むべき道が見えてくるはずだ。と結んでいる。

同じく朝日新聞十二月八日付夕刊社会面では

東京都練馬区立中学校での記事では

「自閉症生徒映らぬDVDの販売企画」と題して校内で開かれた合唱コンクールのDVDをつくる際、一年生の学級で自閉症の生徒が映っていない映像を取り直して販売しようとしていたことがわかった。と報じている。

保護者は「みんなに販売されるDVDにも息子の映像をいれてほしい」「クラスの一人として参加したのだから、DVDに入れないのはおかしいと思う。何に對する配慮なのか分からない」

(抜粋)

はぐるま職員のプロカメラマン中村さんは現在仲間達の記録を映像で残すことを精力的に取り組んでいます。仲間達の持つ潜在能力をレンズの中から感じ取り、自らのライフワーク「真理の追究をはぐるまの仲間達から」を信条として日々活躍されています。

この支援のほどをよろしくお願いいたします。

(中山)

《ゆく人・くる人》

365日ホームを開所することによって、職員が増員がありましたのでお知らせします。

あおばホーム

【退職】

白井 功さん

【新採用】

太田 政之介さん…水・日宿泊

関 信和さん…土宿泊

高山 紀美子さん…土・日調理

みどりホーム

【新採用】

安田 光さん…月・金宿泊

阿久津 寿々代さん…土・日調理

【退職】

三井 弘子さん…けがのため12月中お休み

いずみホーム

【新採用】

瀧島 亮さん…月・水宿泊

【退職】

斎藤 勝末さん…病気休暇中

はぐるま工房

【退職】

小畑 美帆さん…病気休暇中



退職の職員の代替職員がおりますのでご安心下さい。早く完治され復帰してくださいネ。

【工房より…冬の風景】

暖かい冬ですが、麻生の高い所は、多摩より温度が一、二度低いようです。畑は霜で白くなり、吹く風も冷たくなってきました。

通勤路の林の木々は見事に色付き、公園は落ち葉が引き詰められています。その下には、どんぐりが無数に落ちていて、畑の肥料にするための「落ち葉拾い」の手を一時休め、どんぐりを転がして童心に帰ります。

畑は冬に向かい土作りに入りますので、作物が少なくなりましたが、種が落ちて隅っこに生えている、葉つ葉類を摘んでは、みそ汁の具にして、毎日楽しみます。乾燥が続いているので、しいたけは、小さいまま干しいたけになっていました。これも贅沢なみそ汁の具です。

庭の掃除をしながら、寒さをしのぐ焚き火に、以前収穫していたさつまいもを放り込みました。ほんまもんの焼き芋です。空気が一変に焼いた芋の匂いに変わり、仲間達が火を囲んで談笑しています。

帰りはもう薄暗く、集団での帰り道、だれかが「真つ赤な秋」を歌いだしました。歩く道々仲間の歌声が林に響きます。

そんな暮らしが、はぐるま工房にありました。

《粋な贈り物》

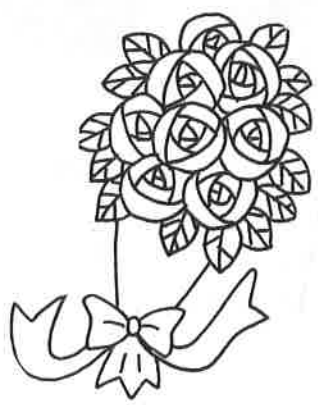
匿名で「宝くじ」が贈られてきました。

頑張れはぐるまの会。
いつも応援しています。この宝くじは、私の友人がイラストを描きました。普段は買わないので、はぐるまの会に、差し上げます。夢を見て戴ければ幸いです。また贈ります

暖かく粋な贈り物をありがとうございました。カリカリしている頭が少しほぐれ、現実と夢がほのかに漂い、新たな年に向けて一歩一歩足を進めるエネルギーを戴きました。

編集後記

全国各地での福祉の現場ではそこで働く人たちや関係者の意思決定がいかに重要かを思い知らされます。情報は双方向でなければ人間社会は成り立ちません。「はぐるま」も発信すべくホームページを立ち上げました。今後その箱ができたのですから関係各位は応援をよろしくお願いします。



ホームページ 開設しました

1/1 ページ

社会福祉法人
はぐるまの会

社会福祉法人 はぐるまの会
〒214-0004
神奈川県川崎市多摩区菅馬場1-18-17
Tel/Fax: 044-946-1308

TOP

はじめに

はぐるまが
大切にしていること

はぐるまの歩み

組織一覧

はぐるま
共同作業所

手作り製品の
販売

海草販売

野菜作り

プラス
ド
フルール

はぐるま
ケアホーム

はぐるま
後援会

MAP 1

MAP 2

私達は5つの目標を持っています。

- ・いじめない・いじめさせない
- ・あきらめない・あきらめさせない
- ・さぼらない・さぼらせない
- ・仲間はずれにならない・
仲間はずれにさせない
- ・言いたいことを言う
言いたいことを言わせる



はぐるまの会のホームページがアップしました。

《ホームページの開き方》

- ① Internet Explorer →メニューバーの下のアドレス欄 に
アドレス「www.k4.dion.ne.jp/~a1a1」入れる。
- ② アドレス欄の右側の をクリックしてください。
- ③ はぐるまのホームページが出てきます。